



水道事業の今を見る

蛇口をひねると、いつでもキレイな水が出る――。
私たちの暮らしに欠かせない、
そんな「当たり前」を支えているのが水道事業です。
今回の特集では、中間市の水道事業を取り巻く現状や、
見えないところで進む課題を紹介します。

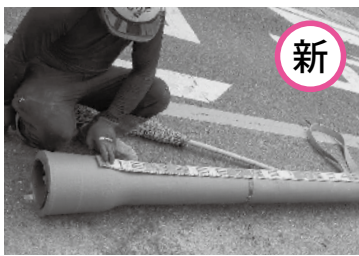


↑写真手前の橋は遠賀橋。中間市の水道事業は、遠賀川と浮洲池の身近な水の恵みを水源としています。

老朽化する水道管

中間市の地下には、生活に
欠かせない水を届ける水道
管が張り巡られています。
その長さは、すべて合わ
せると約327km。なんと、中
間市から鹿児島県まで届く
ほどの距離になります。
このうち40年以上が経過

↓ 40年以上使われた铸铁製の水道管。泥
やさびがこびりつき、破裂の危険がある状
態です。



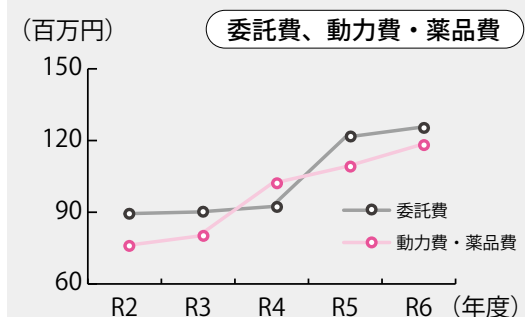
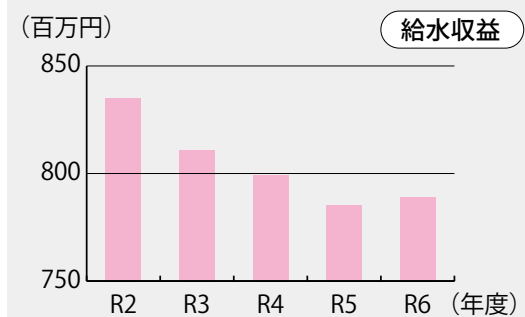
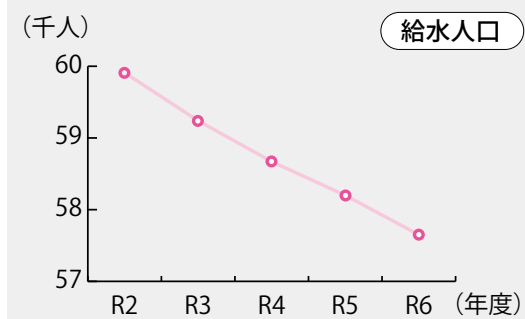
↑新品の铸铁製水道管。地震に強く接合
部が外れにくい構造で、表面には長持ちさ
せるための特殊塗装も加えられています。



↑川の上にかかっている水道管が破裂し、水が勢いよく
吹き出す様子。もし、同じことが道路に埋設された水道
管で起きたらどうなるでしょう…。

昭

和33年11月、福岡
県下20番目の市と
して誕生した中間
市。その25年前、昭和8年
2月にはすでに水道事業が
スタートし、暮らしを潤す
水が市内を流れていました。
昭和46年3月には隣接す
る遠賀町と「水道事業の併
合」を実施。同年5月1日か
らは遠賀町全域へも給水が
広がります。
水源の確保や水質の維持
など、これまで幾度も立ち



はだった難題を、市民の皆
さんと一緒に乗り越えてき
た結果、今では普及率99.9%
という高い水準を保つまで
になりました。

当たり前の水道に迫る課題

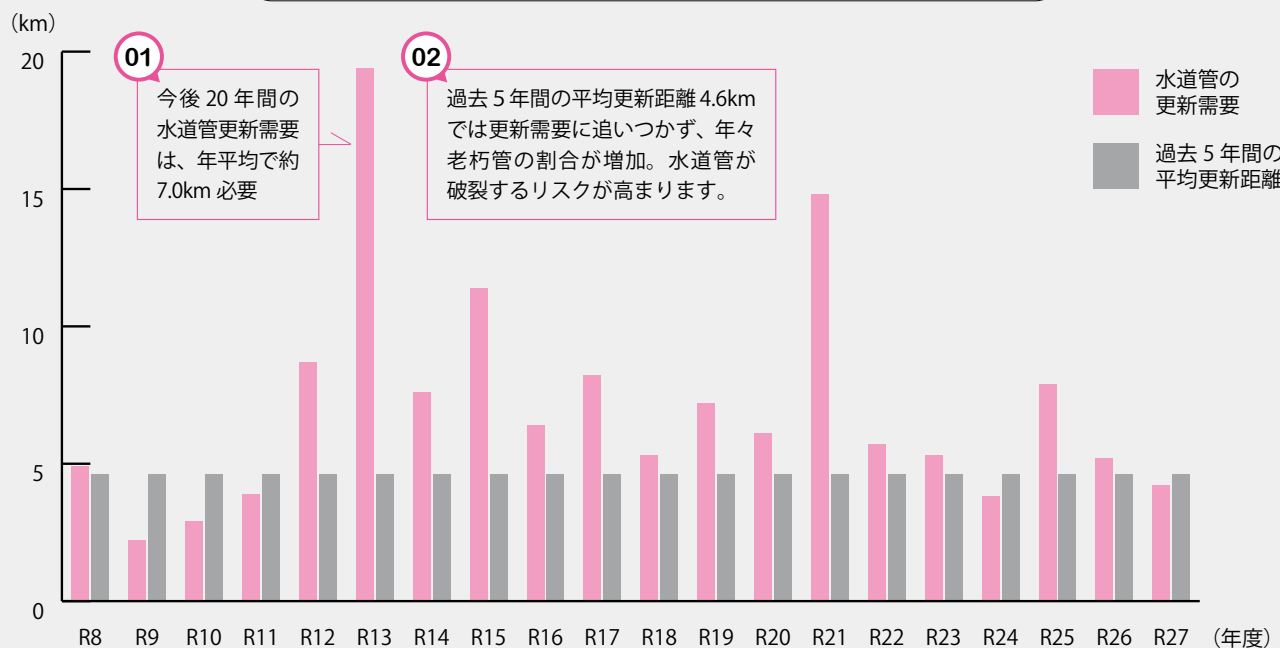
私たちの暮らしを支える
水道事業ですが、近年その
状況は大きく変わりつつあ
ります。
人口減少により水を使う
人が減り、節水の広がり

一人当たりの使用量も少な
くなったことで、水道料金
の収入は減収。

一方で、高度経済成長期
に整備された多くの施設が
一斉に更新時期を迎えよう
としており、これまで以上
に大きな費用が必要にな
ります。

さらに、昨今の物価高騰
で電気代などの動力費も増
加――。水道事業を取り巻
く環境は、今まさに大きな
転換点を迎えています。

今後20年間、増えていく水道老朽管の更新需要(予測)



01
今後20年間の
水道管更新需要
は、年平均で約
7.0km 必要

02
過去5年間の平均更新距離4.6km
では更新需要に追いつかず、年々
老朽管の割合が増加。水道管が
破裂するリスクが高まります。

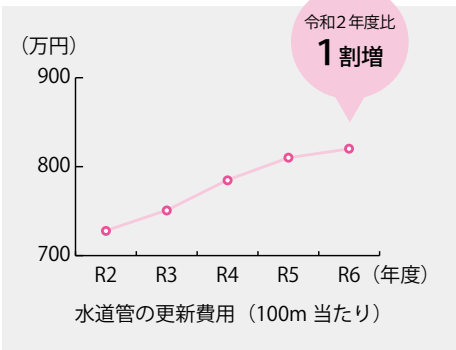
見えないところで支える 「当たり前」をこれからも

安心して水を使える日常
は、市民の皆さんの協力と
インフラへの備えによって
成り立っています。

市では現在、未来にも安心
な水を届けるために、日々
の管理と計画的な整備を着実に
進めているところです。

これからも、水道事業の
現況や取り組みについて、
市民の皆さんにわかりやす
く伝えていきます。

暮らしの足元を支える水道
事業のことに、少しでも目を
向けてもらえたら幸いです。



●問合先 上水道課
☎(246) 62663